

広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

3

1993
MAR.
月号
NO.436

シリーズ “働く”

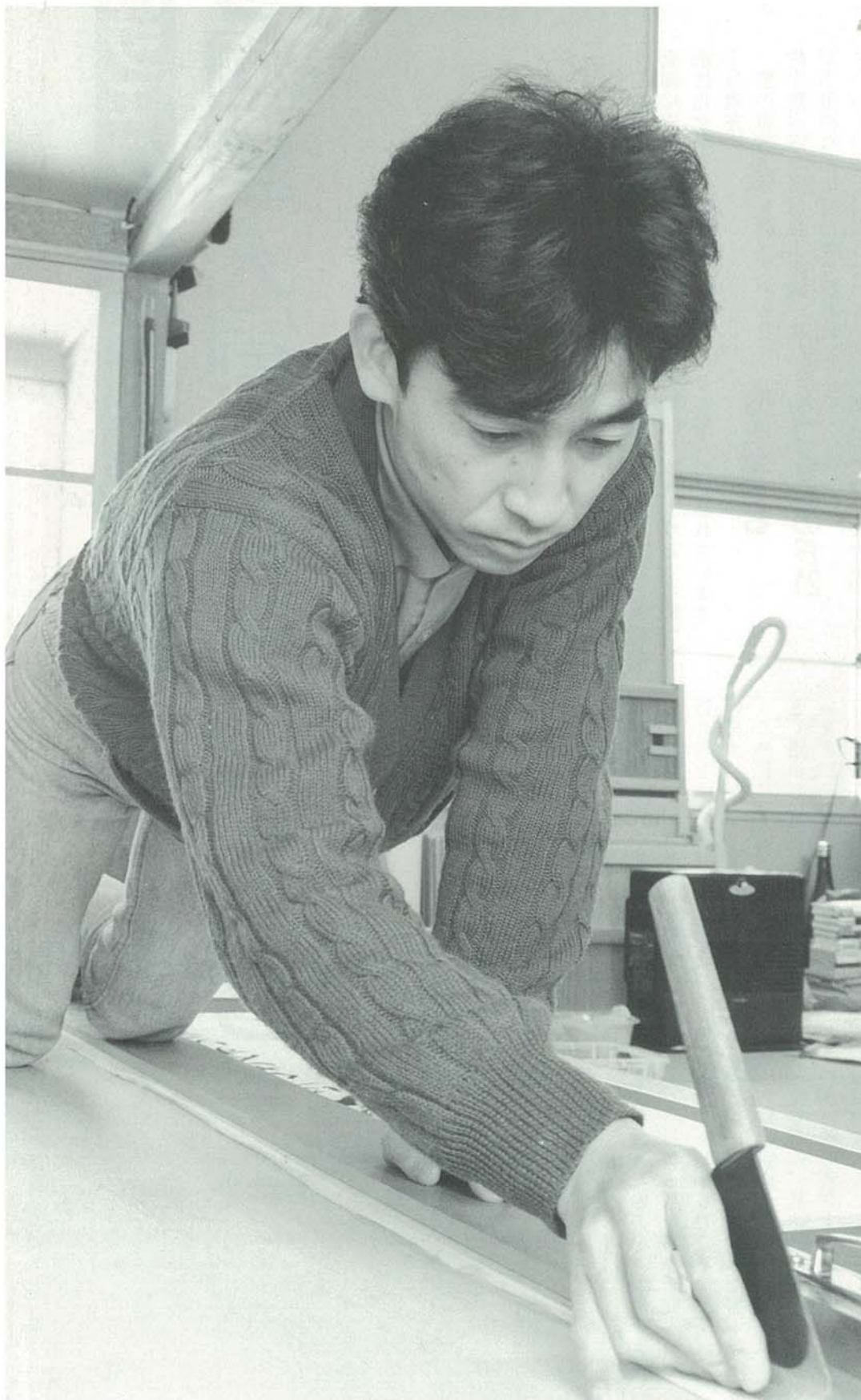
紙の柔らかさ伝える若き表具師

薄刃と呼ばれる道具を使い、表具の縁を慎重に切り取る。清野則昭さん（33歳・四ノ沢）は高校卒業と同時に表具の仕事につき十五年、昨年八月に独立した若き表具師だ。

「書や画を引き立たせ、なおかつ飾った時にいつもピンとしているのが表具の基本。質のちがう

紙をどう調和させるかがポイントです」と表具技術の難しさを語る。

「最近では機械表具が多く見られますが、紙のもつ柔らかさと温もりを伝えるには、手づくりが一番だと思います」と語る目に、職人の自信とこだわりをみた。



F21プロジェクト第一期を終えて

参加型人間の芽をのばそう

～長期的視野に立った人づくり～

町では、平成三年の八月から21世紀をめざした人材養成事業「あさひまちF21プロジェクト」をスタートさせました。今月号は、今年三月で第一期を終えるこのプロジェクトの活動内容についてお知らせいたします。

全国的に盛んな

人材養成事業

町づくりは、まず人づくりからとよくいわれます。なぜ今、人づくりが大切なのでしょう。

よい町とはどんな町のことをいうのでしょうか。それは住んでいる人々が町を愛し、誇りをもって楽しく暮らしていける町ではないかと思えます。町を愛し、町を支えようとする人が多くなれば多くなるほど、町づくりの大きな原動力になり、それがよい町につながるのです。

現在、そういうねらいで人づ

くりを行っている人材養成塾は全国に六百を数えます。(財地域活性化センター調べ・平成三年十月現在)

塾の運営主体を調べてみると約半数の四七%が自主組織、次が市町村などの自治体で行われているもので三〇%となっています。百八十の塾は、自治体を中心となり運営していることとなります。また、塾の規模は十

このように、全国的に人づく

りによって、そこに住む人たちの意識を変えようとする町づくりが盛んに行われています。

町を愛する

人づくりのF21

朝日町では、21世紀に向けた町づくりを進めるために、町をよく知り、さらに、よくしようと考へ行動する人を養成するため、平成三年度から「あさひまちF21プロジェクト」を始めました。Fとは英語のフロンティア(未開の地)、フォーラム(広場)、フューチャー(未来)の頭文字から取りました。すなわち

21世紀に向けて未開の分野に人々が集い、未来を切り開いて行こうとする力強さを表現しています。

このF21プロジェクトは、大きく四つの分野から構成されています。一つは地球にやさしい町をつくる「生活環境プロジェクト」、二つ目はなにごとも人間を大切にする「教育文化プロジェクト」、三つ目はここにつくろう生活の根っこ「産業経済プロジェクト」、四つ目は身近な政治と町づくりを考える「地域自治プロジェクト」です。

平成三年の六月から町内に在住、もしくは勤務する方でおお

むね四十五歳までの方を対象に募集し、八月から八十名の研究員でスタートしました。

このプロジェクトの大きな特徴は、大枠の研究テーマは決まっているものの、具体的に何をどういう方法で研究するかは参加者の自由な考えに任せられている点にあります。各プロジェクトは、三、四名の小グループに分かれ、研究テーマを絞り込み調査研究を開始しました。そのときに、より効果的な研究活動ができるよう、各プロジェクトには二名のアドバイザー(助言者)を配置し、指導をいただ

各プロジェクトの研究テーマ

生活環境プロジェクト

アドバイザー

前田 保夫氏(山形大学教授)
西沢 信雄氏(旅館業)

高齢化問題(5名)

身近な生活環境(10名)
(ゴミとリサイクル)

住みやすい町づくり(8名)

自然環境(7名)

教育文化プロジェクト

アドバイザー

打田 早苗氏(県生涯学習センター専務理事)
菅井 進氏(農業)

専門・文化施設(6名)

民話・昔話の収集(6名)

子供達の遊びと食生活(3名)

産業経済プロジェクト

アドバイザー

小松 光一氏(お茶の水女子大講師)
佐久間 清夫氏(農業)

付加価値型の産業(10名)

商業の活性化(4名)

21世紀型の農村農業のあり方(8名)

地域自治プロジェクト

アドバイザー

半田 次男氏(県職員研修所講師)
堀 重雄氏(町議会議員)

人口定住(10名)

プロジェクト

生活環境

それでは、この一年半の間に各プロジェクトはどのような活動を展開したのでしょうか。

はじめに「生活環境プロジェクト」です。このプロジェクトは四つのプロジェクトの中で最も多い三十名が参加。それを小グループに分け、第一グループは高齢化、第二は身近な生活環境、第三は住みやすい町づくり、第四が自然環境と四グループからなっています。

第一グループは高齢化の問題について、社会福祉制度の学習会や県内外の高齢者福祉施設を視察。朝日町における高齢化対策についての提言を試みました。第二グループは主にゴミ問題をテーマとし、ゴミの減量やリサイクルについての学習を行いました。クリーンセンターや県内の再生工場を訪問し、実際のリサイクルの現状をつぶさに調査。さらに、全国の市町村がどのような方法でゴミ問題に取り組んでいるのか、東京都や京都府の先進地視察を行いました。また、このグループでは、グループ内の機関誌を発行し、学習したことや調査したことをそのつどまとめることも実践して来しました。

このようなことを踏まえ、平成四年度には、研究員が町内の自治公民館で開催されるゴミ問題の講師として招かれるところまで成長しました。

第三グループは、住みやすい町づくりをテーマとした研究活動を行いました。第四グループでは、自然環境のすばらしさを発見しようと「泉」にテーマを絞り、町内の名水調査を行いました。また、県外の市町村で行われている川や沼を利用し、親水空間を整備した所の視察調査を実施しました。

プロジェクト

教育文化

教育文化プロジェクトは、人間を大きなテーマとして十五人の研究員で構成されています。それを三グループに分け、Aグループは専門・文化施設の研究、Bグループは民話と昔話の収集と研究、Cグループは子供の遊びと食生活をテーマにそれぞれ調査研究活動を行いました。

文化施設の研究グループは、これから町にどんな文化施設が必要かを主要テーマに、県内外の博物館や図書館、コンサートのホールなどを視察し、それぞれ施設をつくった背景や利用状況についてまとめました。さらに

活動記録から(抜粋)

生活環境プロジェクト

H3・8/26

生活環境全体会

・研究テーマの選定

・グループリーダー選出

・高齢化問題グループ会

・今後の取り組みについて

第二回全体会

・アドバイザー講演会

・各グループの状況報告

各グループごと数回の話し合いを開催し、具体的活動に入る

・ゴミ・リサイクルグループ

・東京都へ視察

・自然環境グループ宮城

・県登米町へ視察

・高齢化グループ秋田県

・大森町へ視察

・国際エコミュージアムシン

・ポジウム「地球にやさしい生活アイデアコン

テスト」に参加。

・ゴミ・リサイクルグループ

・産業廃棄物処理現場

視察

・自然環境グループ千葉

・県手賀沼親水広場視察

・高齢化グループ山辺荘

視察研修

H4・3/13

・ゴミ・リサイクルグループ

・東京都へ視察

・自然環境グループ宮城

・県登米町へ視察

・高齢化グループ秋田県

・大森町へ視察

・国際エコミュージアムシン

・ポジウム「地球にやさしい生活アイデアコン

テスト」に参加。

・ゴミ・リサイクルグループ

・産業廃棄物処理現場

視察

・自然環境グループ千葉

・県手賀沼親水広場視察

・高齢化グループ山辺荘

視察研修

今後は、町民に対するアンケート調査を行うべく準備を進めています。

民話の収集を行っているBグループは、町内のお年寄りから聞き取り調査を実施。「東京民話と文学の会」と合同で町内をくまなく歩き、民話や昔話の掘り起こしを行いました。今月中に、二十六編をまとめた第一集の民話集が出来上がる予定です。同グループではさらに、第二、第三の民話集の発行に向けて頑張っていくことにしています。子供達の遊びと食生活のCグループは、子供の生活に関するアンケート調査を行い、現代の子供たちの遊びと食生活について研究分析を試みました。

プロジェクト

産業・経済

町の産業の足腰を強くしようとして始められた産業経済プロジェクトは、会社員、農業者、商店主などさまざまな職業の人達が集まりました。そのため、当初はグループのテーマを絞り切れず苦労をしたようです。しかし、その中で農業者を中心とした付加価値型の産業づくりをテーマとする第一グループ、商店主を中心に商業の活性化をテーマとした第二グループ、そして、21

世紀の農村農業の在り方をテーマとした第三グループにそれぞれ分かれ活動を行って来ました。

第一グループは、町の特産品であるリンゴが好調なうちに、次の特産品を開発しようという調査活動を展開しました。その一つとしてゼネラルクラーク（西洋なしの一品種）に着目。消費者動向から販売方法まで調査活動を行いました。第二グループは朝日町型ショッピングセンターの模索をテーマに、独自の視点から資金調達や店舗図面のシミュレーション（模擬実験）を試みる活動を行いました。第三グループは、現在の農業の労働力不足を考え、他産業からの労働力確保にテーマを絞り調査を行いました。寒河江市内の三つの企業にアンケート調査を依頼し、それを基に先進地視察を行い、他産業からの労働力の確保が可能かどうかについて研究を進めました。

プロジェクト

地域・自治

四番目の地域自治プロジェクトは、人数も十人とそれほど多くないことから小グループに分かれることなく活動を展開してきました。研究内容は、町の人口定住に関することです。毎年

町の人口が減少する背景を調査し、どういう所に問題があるのか、具体的に人口減少に歯止めをかけるにはどうすればよいかを提案する内容となっています。具体的提案としては、役場内の組織改革や町外の人たちによるネットワークの整備と活用を挙げられています。

さらに、町のいろいろな情報を発信したり、町外の情報を収集するために「朝日町応援団」の創設や、「朝日町特派員制度」なども提言しています。以上が四つのプロジェクトの大まかな活動内容です。

人づくりは長期的

視野で継続

実質一年半の短期間で、ある程度の研究成果を出すことは、大変なことだったと思われます。このプロジェクトは、三月いっばいで第一期を終了しますが、まだ始まったばかりの事業です。すぐに、目に見えるような効果が現われるというものではありません。人づくりには長期的視野が必要です。町では、第一期の反省を踏まえ、平成五年度からは、より一層内容の充実した第二期の人材養成事業を展開することにしています。

「研究テーマは各グループが自主的に決定する」ということで、研究生自らの意欲的な行動にまかせる方向で、「あさひまちF21プロジェクト」活動が進められました。二年間を経過して、グループ毎にその構想がどんな形で実現したか、反省しながら感想を述べてみます。

Aグループ「専門・文化施設の研究」では、まず、遊学館など県内文化施設視察から研修が始まりました。町民の意識調査をもとにして、今後の文化施設のあり方を進めて行く方法は正しいと思います。しかし、さらに「おやつ」というような意外性と、夢のある新しい魅力を持った施設づくりを中心を考える、というのはどうでしょう。

Bグループ「民話・昔話収集と研究」については、「東京民話と文学の会」との合同調査のかいあって、朝日町ではこれまでほとんど行われたことのなかった、民話の収集がなされたことは特筆すべきことです。さらに、「朝日町の昔話」の

教育・文化プロジェクト アドバイザーとして

菅井進氏（沼向）



小冊子を作るまでにこぎつけたことはすばらしい成果だと思います。朝日町の方言と表記法についても研究を進め、伝統的な美しい方言を正確に表わして、温もりのある言葉で、町の民俗・文化をほうふつと再現させることは大変意義あることだと思います。

Cグループ「子供たちの遊びと食生活」は、現代の子供の問題点を真っ向から取り上げたテーマで、回収されたアンケートから引き出される諸問題は、子供の教育のあり方を示唆するものです。アンケートの結果からは、テレビが三台ある家庭が多いこと、外では遊ばないで家の中にばかりいること、好き嫌いや朝食抜きなど、子供たちの生活の実態が浮かび上がってきました。

各グループとも不十分な点はあるにしても、少人数ながら、よく活動したように思われます。最後に、「学の前に書きたる」（志さえあれば、それを実行する便宜が与えられる）と結び感想とします。



教育文化PJ

専門・ 文化施設グループ

小林 秀子さん
(主婦・栄町)

「お母さんの勉強会に出かけて来ます。留守番お願いね」と、子供達や夫の協力を得て二年間学び続けてきました。

私のテーマは、エコミュージアム構想の中の文化施設のあり方。身近な所では、図書館、博物館、文化会館等の設置を考えることでした。すぐとはいかずとも、心豊かな生活をする為に多目的な文化ホールがあればと考えています。

都会的な施設をそのまま真似するのではなく、朝日町の良さと個性を出し、なおかつ町のシンボルになるような建物と考え、県内外の施設を調べ、利用状況や運営等を学びました。これまでの研究で、まだ結論は出ていませんが、近い将来つくられるであろう町の文化施設について、より利用しやすいものとするため、これからも研究を続けたいと考えています。



地域自治PJ

地域・ 自治プロジェクト

鈴木 光さん
(公務員・松程)

地域自治プロジェクトに参加して二年が過ぎようとしています。振り返ると、様々な考えを持った先輩方から多くの視点を与えて頂き、大変勉強になったプロジェクトでした。

特に歪を傾けながらの会議が印象に残っているのですが、視察研修にも参加させていただき、なかなか個人では行けない地にも足を運ぶことができ、楽しく有意義でした。少人数で限られた時間の中でしたが、チーフと事務局の適切なリードでそれなりの形を残せたと思っています。

この事業は、あくまで一人ひとりの町づくりへの関心を高めるきっかけであれば、それで十分と思います。今後更に参加者が広がるよう、「地域自治」というネーミングの変更を検討してはいいかがでしょう。



生活環境PJ

ゴミ減量と リサイクルグループ

長岡清一郎さん
(会社員・大暮山)

私達のグループは、ゴミとリサイクルを研究テーマに取り組んできました。発足当時は進む方向が定まらず、何から手をつけて良いかわからない状態でした。しかし、先進地及びグループとの交流により徐々に活動の方向性が見えてくるようになりました。この頃からグループ内の機関紙を発行し、相互の意志の疎通が図られるようになります。さらに活動のまとめがなされ、次のステップへと進んで行くようになりました。

現在では、講師として育成委員研修会や、婦人会学習会でゴミ減量の啓発活動を行えるまでに成長しました。

まだまだ第一歩を踏み出したばかりですが、今後も研究を続け、町の生活環境を少しでも美しくしてゆきたいと思っています。



産業経済PJ

付加価値型の 産業づくりグループ

清野 忠市さん
(農業・古楨)

私の参加しているグループは産業経済プロジェクト。年長(?)ということではチーフをやっています。一村一品運動の元祖、大分県知事が、一村一品をつくるにはそれを創る「人」をつくることだと言っております。F21もそういった事業の一つと思い参加しました。

第一期が終了する訳ですが、産業経済プロジェクトとしては、「農工商」と範囲が広く当初研究の対象となる焦点が定まらず、足踏み状態でしたが、後半はそれぞれに研究の成果が出てきたのではないのでしょうか。私としては異業種、そして自分とは違った年代と話し合う機会を得、大変良かったと思っています。

短期間に成果が上がるという事業ではありませんので、今後第二期の事業となると思われます。町民の方々も積極的に参加して、自分を高めてはどうでしょう。それが、ひいては私達の町が「いい町」になると 생각합니다。

～第5回朝日町生涯学習推進大会～

みんなで学びわくわく人生を



一年間の活動成果を発表

生涯学習の大切さが年々高まって来ています。町では、町民の皆さんの生涯学習の実践の場として「朝日町民大学」を開校してから四年目となりました。今年一年間の学習活動を振り返り、これからますます学習意欲を高めようと、第五回朝日町生涯学習推進大会が二月二十八日、町中央公民館で開催されました。当日は町民大学の共通科目三単位以上、専門科目七単位以上取得したみなさん百七十五名を

含む二百五十名の町民のみなさんが参加。はじめに、町民大学の履修証書が阿部静江さん（松程）ら代表十名に清野隆町長より授与されました。

続いて朝日相扶製作所提供の相扶賞が一団、一個人に阿部宗一郎社長から贈られました。団体の部は、昭和五十四年から地元の草木を使った葉草の研究をとおして、高齢者の生きがいと仲間づくりに頑張っている高齢者生産活動センター葉草部（代表大井武・会員四十二名）に。個人部門では、共通、専門科目合計五十単位以上を履修され、その内容が婦人文化教室の活動に止まらず、広い分野の学習活動を展開された大谷道子さん（大谷六）に贈られました。また、一年間の学習活動のまとめが三団体から発表されました。常盤公民館の長岡啓治館長からは、同公民館の活動内容の紹介が行われました。さらに婦人文化民謡教室のみなさんや、お話会「ぶなの実」のみなさんからは、民謡や人形劇の実演などが披露されました。

午後からは、講師の宝井馬琴師匠の「戦国武将の知恵に学ぶ」と題する記念講演も行われ、参加者たちは学ばせを存分に味わった一日でした。

農業の振興対策に全力

新人4名

新たな農業委員紹介

昨年十二月二十日の任期満了に伴い、十二月一日に告示された町農業委員の選挙において、次のみなさんが当選されました。（任期は平成七年十二月二十日までの三カ年）選挙は定員十三名に対し、一人少ない十二名が立候補。現在の厳しい農業情勢を反映したものとなりました。

同委員会は、町の農業振興対策や農地の有効利用促進などを審議する機関として、また活力ある農業、農村を築くために重要な役割を担っています。

農地の所有権の移動や地目変更など農地に関することは、お近くの農業委員や町農業委員会へお気軽にお問い合わせ下さい。

■会長 白田 光市（大谷三）
 ■職務代理 浅岡米五郎（元町）
 ■農政部長 佐藤 平吉（宿）
 ■同副部長 東 昇（大谷四）
 ■農政部長 鈴木 好一（ハツ沼）
 ■同副部長 鈴木 好一（ハツ沼）
 ■農政部長 鈴木 好一（ハツ沼）
 ■同副部長 鈴木 好一（ハツ沼）

〃 清野 正男（古横）
 〃 堀 真一郎（舟渡）

議会選出



新委員による初の農業委員会

農政部長 若月 慶一（西船渡）
 〃 小川 正三（太郎二）
 農政部長 鈴木 秀一（松程）
 同副部長 長岡 壽一（常盤）
 農政部長 小林 昇（大沼）
 〃 村山 武（宇津野）
 〃 堀 恒夫（舟渡）
 〃 志藤 正紀（川通）
 〃 長岡 健治（常盤）
 〃 共済組合選出（敬称略）

中山間地は高付加価値 高収益型をめざせ

朝日町農業大学



講師の鈴木隆彌氏

今年度の朝日町農業大学が3月3日、農業団地センターで開催されました。講師に県農協中央会営農農政部長の鈴木隆彌氏を迎え、「新政策と朝日町農業の課題」と題し講演が行われました。

昨年6月に農林水産省が発表した「新しい食料・農業・農村政策の方向」（新政策）は、昭和36年につくられた農業基本法の見直しにも関連するといわれる重要な農業政策のひとつです。この内容について鈴木氏は、「大規模農家の育成と中山間地農業の活性化対策の二本立てになっている」と指摘。「大規模農家については、その農家を各市町村において認定し農地を集積するなど、国の政策を集中させる制度や優遇税制を行うことで、経営能力に優れた農業組織法人の育成をねらいとしている。また、中山間地対策では耕作放棄地を解消するため、新たな土地制度を導入することを柱としている」と説明されました。

また、「新政策実現のためには、明確にされていないものの来年度に13の新規事業、30の関連法律の改正が予定されていること」なども付け加えられました。さらに、「今しめされている新政策は水稻を中心に考えられているが、今春からは果樹や畑作物、畜産なども審議される予定である」とことなども説明されました。

最後に、朝日町のような中山間地域の農業については「有利な補助金や融資制度を利用し、地域の特性を生かした高付加価値、高収益型の独自アイデアによる農業振興策が必要であろう」と結ばれました。

山形県知事選挙

高橋和雄氏（無所属）が 初当選を果す

前知事板垣清一郎氏の辞任に伴う県知事選挙が1月25日に告示され、2月14日に投票、即日開票の結果、前副知事の高橋和雄氏が初当選を果たしました。

今回の選挙は無所属の新人5人が乱立する、激しい選挙戦を展開。知名度と行政手腕を訴えた高橋氏が、全県下からまんべんなく票を集め334,030票を獲得し当選しました。各候補者の得票数は次のとおりです。

■県内の得票数

当	高橋和雄（無所属）	334,030票
次	土田正剛（ 〃 ）	292,803
	降矢敬義（ 〃 ）	30,374
	毛利健治（ 〃 ）	29,290
	榎本和平（ 〃 ）	21,972

■町内の得票数

	高橋和雄（無所属）	3,165票
	土田正剛（ 〃 ）	3,154
	榎本和平（ 〃 ）	200
	毛利健治（ 〃 ）	141
	降矢敬義（ 〃 ）	108

■町内の有権者数及び投票率

有権者数	7,928人（男3,890人 女4,038人）
投票率	85.78%（男84.53% 女86.95%）



テープカットをして完成を祝う

道路整備で
快適な暮らし

前田沢西町線

役場前の十字路口から朝日病院わきを通り、県道白滝宮宿線に通じる都市街路前田沢西町線が二月二十七日開通しました。
当日は地権者や町、工事関係者らが出席し安全祈願祭やテープカットをして完成を祝いました。この道路は延長が二四六メートル、幅が十二メートルで約二億七千六百万円を投入して完成したものです。

夢 氷

かぐわしき香りをあなたに

第9回 アイスエッセンス魅惑のタベ



今年のアイスエッセンスは酸味、甘さとも最高



ビンゴゲームの賞品
もワイン

「極寒の葡萄の雫」という名称で、ワインファンには人気の高いアイスエッセンス。すでに、三万五千本の限定販売で三月五日から発売されていますが、「アイスエッセンス魅惑のタベ」と題するワインパーティーが二月二十六日、農業団地センターで華やかに開催されました。

詰め掛けたワインファン二百四十人は、フルートとエレクトーンの生演奏が流れる中、アイスエッセンスの芳醇な味と香りを満喫していました。

ブレンドする

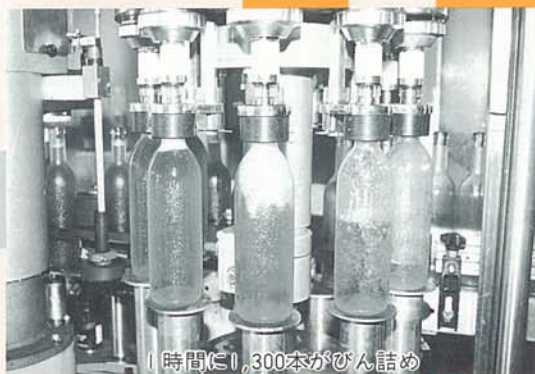
冷却する

ろ過する

びんに詰める

セラーで熟成させる

包装する



1時間に1,300本がびん詰め



地下室でじっくり熟成



12種類のワインの出来上り



私たちはアイスエッセンスの大ファン



ビンゴゲームのラッキー
ガールは菊地千恵さん
(左)と菅井千春さん(右)
のお二人



ぶどうからワインへ

朝日町ワイン(赤)
のできるまで



完熟したブドウ

ぶどうをつぶす

果皮ごと
発酵させる

種と皮を
取りのぞく

さらに
発酵させる

沈殿させ、
おりを除く

樽に貯蔵熟成させる



アイスエッセンスの
できるまで

ぶどうを凍らせる

果汁だけしぼる

発酵させる

ピラミッド・ピーク(標高7,123m)初登頂めざす

鈴木正典さん(栄町・朝日山岳会)

ヒマラヤの未登峰に挑戦



鈴木正典さん(栄町・31歳)
山形中央信用組合宮宿支店勤務

インド北東部シッキム州とネパールの国境にそびえるシッキム・ヒマラヤ山脈その中の未踏峰ピラミッド・ピーク(標高七、一二三m)に栄町の鈴木正典さん(31歳・信用組合宮宿支店勤務)が初登頂をめざして二月二十一日に出発しました。

二月二十一日から五月十六日(八十五日間)にわたる今回の海外遠征登山は、日本ヒマラヤ協会とインドのインド・チベット国境警備隊が合同でピラミッド・ピークの初登頂と周辺地域の調査を目的として行われるものです。世界中で七千メートル級の未踏峰は十山あり、そのうち六山は登山許可が下りていません。現在のところ登頂可能な山は、四山しかないといわれています。その一つが同山です。周辺地域は、国境ということでも軍事上重要な場所であるため、

〈概略図〉



最近まで外国人の立ち入りが規制される秘境の地とされてきました。

今回の合同隊は、日本側七名、インド側七名、医師一名、無線技師二名、キッチンスタッフ三名、さらに現地のシェルパやポーターらが参加する大掛かりな

編成内容となっています。鈴木さんはその七名の中の一人として、頂上をめざすこととなります。

小学五年のとき朝日連峰に登ったことがきっかけで、山登りを始めたという鈴木さんは、現在朝日山岳会(花山忠夫会

松原/ 安藤 茂昭くん
(上郷小1年)
安藤 つや子さん
(66歳)



ぼくのばあちゃんは、ぼくがとこやに
いかなので、ばあちゃんがかみをき
てくれます。そして、おやつをもらいま
す。

あと、ばあちゃんのつくってくれるお
このみやきとだんごが大好きです。
ばあちゃん、これからもげん気できて
ください。

長・会員四十名)に所属。仕事のかたわら年間六十日から七十日は山に入る登山家です。これまでに登った主な山は冬期における南、中央、北アルプスの単独従走をはじめ、冬の谷川岳一ノ倉沢中央カンテ、さらに海外では韓国のインスボン(東洋一の岩山)など数え切れません。

週末になるとリュックを背負い、仙台市作並の鎌倉山や東根市の黒伏山などに行き、山登りの技術を身につけました。その高い技術と単独行で鍛えた強靱な体力と精神力が評価され、今回のヒマラヤ遠征隊に参加が決まったものです。

今回の遠征について鈴木さんは「ピラミッド・ピークは世界第三位の高峰カンチェンジュンガの北方に位置し、過去に三回ほど人類が挑戦しましたが、すべて退けている山です。さらに、七千メートルという高度に体が順応できるかなどの不安はあります。その反面、今回の遠征で少し忘れかけていた山登りの感動を味わえるのではないかと期待をしています」と淡々と語る姿に、山に対する真摯な態度と自信のほどが伺えました。

今回の遠征が成功されるよう、町民のみなさんと一緒にお祈りしたいものです。

ぼくのばあちゃん



町民のひろば



ひとことトーク

限りなき可能性への挑戦

～'93 東京国際マラソンに参加～



海野宏行さん
(送橋・29歳)

2時間31分55秒で国立競技場のゴールを切った瞬間、ヤッター！と同時にほっと一安心という気持ちでした。東京国際マラソンで完走することは、マラソンをはじめてからの長い間の夢だったのです。

2月14日国立競技場に集合した選手は、外国の招待選手20名を含む100名。標準タイム2時間30分を突破している一線級のランナーたちです。

平和島を折り返してからの強い向かい風に悩まされ、自己ベストの2時間28分04秒には及びませんでした。56位で完走できたことは大きな自信になりました。

この次は、標準タイム2時間26分の福岡国際マラソンを目指して、一日15キロのロードワークに一層力を入れようと思っています。



百川村太郎の農業長岡代五郎氏
明治十三年八月十四日、西五

ふるさと人国記 35

長岡代次郎

ふるさとを詠みつけた若葉宗匠

朝日町の自然や風土を愛し、和歌や俳句にふるさとへの愛着を描きつけた精進は、まさに偉業である。目前の美しい自然も、愛する心を通過しないと見えてはこないものである。

○朝日さし風切山のあたたく住心地よき豊かなる里

○遠くより吾がふるさとの暖日山に朝日かがやきなつかしくぞ見ゆ

○昔より朝日詣での一の木戸と伝へられたる野々山の宮

○鱒遊ぶ朝日川辺に湯のかほり

○大朝日雲晴れわたる神の苑

○朝日町生れて楽し小春顔

明治十三年八月十四日、西五

百川村太郎の農業長岡代五郎氏

○学童の絵筆に咲きぬ草の花

昭和三十四年四月十七日、梅の香に包まれて若葉宗匠はその一生を終えた。山を愛し水を愛しつづけた八十余年の生涯は偉大であった。文・杉ひさし

の長男として生れた代次郎は、小学校を卒えると農業のかたわら、和歌や俳句をつくりはじめた。

近くの長岡仙吉氏に教えを乞い、やがて、芭蕉系獅師門宗家十三世に師事し、江緑庵若葉と号して本格的に句作を試みた。

若いころの俳句には、

○冬の朝嫁ぎし姉の手のあれし寝かす児に昔話の炬燵かな

○子の知恵の伸びて短し秋裕

○母病みて泣声かなし枝蛙

といった抒情的な句が多く見られるが、晩年には叙景を主とした歌風をうちたてている。

○遠く澄む嶺の尖りや渡り鳥る麦

○人もかくあれや踏まれて伸びる麦

○馬の背に蜻蛉のとまる日和かな

○学童の絵筆に咲きぬ草の花

昭和三十四年四月十七日、梅の香に包まれて若葉宗匠はその一生を終えた。山を愛し水を愛しつづけた八十余年の生涯は偉大であった。文・杉ひさし



舟渡公民館風づくり教室

日本風の会会員の兼子直さん（大江町）を講師に迎え、舟渡公民館主催の風づくり教室（文化伝承教室）が2月13日、子供から大人まで参加して楽しく行われました。

兼子さんの手ほどきを受けながら、一時間ほどで完成した手作り風は、早速青空の中に舞い上がっていました。大人にとっては昔懐かしい遊びの再現に、また、子供にとっては月一回の土曜休みの有意義な一日を過ごしました。

「わたしは米国メリーランド州生まれのシャノンです。六十六年前クレア姉さんが贈られてきたと思いますが、わたしはその妹です」。

三月三日、クレアの贈り主の孫に当たる、シドニー・ギューリック三世氏からかつてと同じ気持ちでシャノンという人形が宮宿小学校に届けられました。大正から昭和の初めにかけて、米国の排日感情に心を痛めたギューリック氏は、「両国が信頼しあえる心を子供のころから育てよう」と全国の小学校に一万二千体の人形を贈りました。その後、人形は太平洋戦争中敵国のものだという理由で焼かれ

宮宿小

青い目の親善大使再び シャノンちゃんはアメリカ生まれの人形

町議会の議長、副議長は党籍を離脱するべきである。いまさら、国会の例を持ち出すまでもなく、このことは今日の国民的常識である。

自治体（町）とは右も左もまん中も、そのどれでもない人も、等しく主権を持ち幸福と利益のために生活している集合体である。もちろん、上は国会から下は町議会に至るまでそれぞれの議員が自らの主義主張を持ち、支持基盤の利害を代表して議会の内外に活動している。それに伴い、派閥

町民の声

町議会議長・副議長は 党籍の離脱を

阿部宗一郎（常盤・69歳）

平、平等の原則において行動を求められる人格となる。地方自治法第百四条はそれを「議長は議会を代表する」と定めてある。

けに、議長職権の行使が一党一派の党利党略によって左右されるとなれば、町民にとって大問題である。特に地方自治にあつ

り、以上提言します。

ては、議長の職権が町長と比すべき影響力を持つだけに、公私の職務遂行は超党派的であることが特に重要である。

米ソの対立が終わって五年、今や右だ左だの対立などナンセンスの時を迎えつつある。エコミュージアム構想を町づくりの新たな考え方とする町が、政治の世界だけ依然として時代遅れといわれては誠に残念である。

申し合わせの改選期に当たり、以上提言します。

エコミュージアム構想を町づくりの新たな考え方とする町が、政治の世界だけ依然として時代遅れといわれては誠に残念である。

エコミュージアム構想を町づくりの新たな考え方とする町が、政治の世界だけ依然として時代遅れといわれては誠に残念である。



主婦H ゴミ問題が叫ばれて久しくなるのになかなか改善されませんね。

博士 国のレベルでは、経済の発展ということもありなかなか難しいようじゃのう。でも、福岡県北野町や和歌山市、近くでは最上町などの自治体では、空き缶ポイ捨て防止条例をつくって効果を上げている所もあるようじゃ。

主婦H あら博士、朝日町だって人材養成事業の「F21プロジェクト」でリサイクルをテーマに研究しているグループでは、町民にリサイクルに対する認識を高めてもらおうと啓蒙活動にがんばっているんですよ。

博士 感心感心。町内企業でも古紙業者と協力して、不用になった紙を再生しようという分別収集に取り組み始めたようじゃのう。

主婦H リサイクルの芽は、



石須部集落全景

ふるさと
めぐり
〈32〉

永久橋にかけた

区民の熱意

石須部

石須部集落は、町の中心部から西へ六キロメートル。南向きの高台にある戸数十四戸の小さな集落です。

石田測集落から朝日川にかかる石須部橋をわたり集落に入ります。以前この橋は木橋で、曲がりくねった道路とともに耕運機がやっと通れる程度の危険な橋でした。しかし、昭和三十九年に区民の悲願がかない永久橋に架け替えられました。当時の

様子を長岡啓治区長さんは、「部落所有の栗林を売って工事の負担金を捻出したんですよ」と区民の橋にかけた熱意を語ってくれました。

また、この橋の上流左岸には昔から塩湯が吹き出しています。高齢者活動センターの源泉にしようとボーリング調査も行われましたが、経費の関係で利用されず、現在もそのままになっています。当集落は急傾斜地にあるため、治山事業にも力を入れていますが、この塩湯の開発が村づくりの大きな起爆剤になって欲しいものです。

(長岡典巳 広報委員)



明鏡荘に寿司のプレゼント

3月3日のひな祭りに、寒河江市で寿司店を営んでいる、佐藤敏さんから明鏡荘の入荘者に寿司がプレゼントされました。

この日ふるまわれたのは、生寿司やのり巻き、いなりなど120人前。今年で7回を数える慰問を心待ちにしていた入荘者たちは、握りたての寿司をほおぼり満足そう。佐藤さんは、「元気で商売ができることに、感謝したいという気持ちで始めたのですが、今では商売の励みになっています」と語ってくれました。



シャノンちゃんを歓迎する児童たちとシャノンちゃん(右)



たり捨てられたりして、現在では全国に約二百体が残っているだけとなりました。県内では、宮宿小学校のほか七校に保存されています。

ギューリック三世氏は五年ほど前から祖父の意志を継いで、大切に保存している学校に「妹」を贈り始めました。その一体がシャノンちゃんです。

当日は児童によるシャノンちゃんを迎える集会が行われ、すっかり仲良しになりました。

思い出を胸に巣立ちのとき

朝日分校卒業式

時折小雪の舞う三月二日、県立左沢高校朝日分校の卒業式が行われました。今年の卒業生は男子二十三名、女子二十名の計四十三名。

はじめに、卒業生を代表して遠藤ひとみさん(栗木沢)に佐々木亮校長より卒業証書が手渡されました。

四十三名の進路は、専門学校への進学が九名、県内就職が二十三名、県外就職が十名、未定が一名となっています。そのうち町内に就職するのは三名です。



新たなスタートをきった卒業生たち

目に見えるような早さじゃないけれど少しずつ伸びているんですね。博士 どういうやり方が最も効果的かは、地域性などもありそれぞれ違うかもしれません。でも、すぐできるようなアイデアはたくさんあるので、まねてみることも近道かもしれないね。まずは、小さな芽に期待してみようか。



親と子

子の親となつて

いつしか私は、子供の泣き声に敏感になっていました。子供の泣き声だけでなく、子供の、一挙一動を見守っている自分の姿に気づき、ひとりで顔がほころんで来るのを覚えました。人の子の親となつて、親心とはそんなものだろうかと思うようになっていたのです。

私の妻は、その年の春の年度替えになると、それまで取っていた育児休暇を終え、また仕事に通うことになりました。家は自営業なので、父親である私が仕事をしながら家に残り、夕方妻が帰って来るまで、おじいちゃんおばあちゃん、そして私の残った家族三人で子供を見ているのです。

それは、息子の幸大が生まれて七、八カ月、妻が勤めを再開してしばらく経った春の日のことでした。私は、幸大をおじいちゃんおばあちゃんにあずけて、映画を見に山形へ行ったのです。

私はなにより映画が好きでした。学生の頃は料金の安い名画座に週に二、三回、家業の仕事をやるようになってからでも、暇を見つけて週に一回、少なくとも二週

間に一回は、映画館に足を運んでいました。そんな私も結婚して、子供も生れると、自然に映画館への道は遠くなっていたのです。

そして、とんと久しぶりに映画を見に山形に行ったのです。

映画が始まるまで少し時間があつたので、本屋に行ってみることにしました。

本屋で立ち読みをしていた私は、どこからともなく聞こえて来る子供の泣き声に耳を傾けていました。ふと我に返った私は、はっとして、幸大が泣いているのではないかと思ったのです。でもここは山形、幸大がここにいるはずはないのです。しかし、私の心はしだいに騒ぎ出し、もしかしたら今頃、家ではおじいちゃんおばあちゃん相手に大泣きしているかもしれない。そんなことを考えたら、なん

第9回

朝日自然観

スキー大会

第九回朝日自然観スキー大会が二月二十一日、朝日自然観スキー場ハートピアゲレンデで行われました。成績は次のとおりです。

■小学男子回転／①白田太一(白倉スポ少)②鈴木祐二(同)③児珠梓(同)④佐藤市寿(左沢小)⑤阿部知也(白倉スポ少)⑥高橋洋一(左沢小)

■小学女子回転／①鈴木佐江子(白倉スポ少)②渡辺亜紀(同)③阿部真理(同)④後藤友紀(同)⑤阿部宏美(西小)⑥高橋愛(水本小)

■中学男子回転／①阿部康史(朝日中)②鈴木誠(白倉スポ少)③岡崎稔(作谷沢中)

■高校・一般男子回転／①高橋益男(山上体協)②菅井奈穂(山商)③清野雅紀(寒河江市)④稲毛靖(山商)⑤真田伸夫(河北町)⑥野口孝(山形市)



選手宣誓をする白田太一君



だか映画のことなど、もうどうでもよくなってしまう。

あたりには子供の姿はなく、まばらに散らばる数人の客と、レジを打つ店員がいるだけでした。店の外は自動車が行き交う。ガラス越しに見える空は、ほんやりと春の霞にかすんで見えました。

何も買わず外に出た私は、もう一度あたりを見まわし、自分の自動車に乗り込みました。自動車を動かし、ふと店の向きを見ると、二歳くらいの女の子が、小さな赤ちゃんを背負ったお母さんの腕を引っ張るように、足を鳴らしながら、泣いていました。

私は無意識のうちにスピードを上げ、薄青色に煙った空気をフロントガラスに浴びながら、急いで家に向かいました。

自動車の音を聞きつけた幸大は、哺乳瓶をくわえながら、おばあちゃんに抱きかかえられ、廊下に出て来ました。私は幸大を抱き上げ、頬ずりをしました。

「今起きたばかりだよ。おしめも交換して、おりこうにミルクを飲んでいたんだよ。」

幸大の頭を撫でながら、おばあちゃんと言いました。

私の腕に抱きかかえられた幸大は、まんまるい目をして私の顔を見つめ、勢いよくミルクを飲んでいました。

それ以来、私はあまり一人で出かけることはなくなりました。私の仕事のおともにも近くの店に仕入れに行ったり、またドライブなどで自動車に乗る時は、いつ

も幸大を助手席に乗せ一緒に出かけるようになったのです。

幸大を連れて仕入れに行くと、ふと何ともいられない懐かしさと郷愁を感じることがあるのです。

店のおじさんおばさんと遊んだり、私の方にすりよって私の手を取り抱っこをせがんだりする我が子の姿を見ていると、ちやうど三十年前の父と私を見ている思いがしてならないのです。

居て欲しい時に親がいる。手を伸ばした所に親がいる。それだけで、子供の心は安らかに、心優しく落ち着いてくるのです。

私が小学二年の時、母は山形の病院に入院をしました。生死をかけた手術で、長い間の入院でした。部屋に入り姉弟三人両手をあわせて、神様にお祈りをしました。その頃の心細さが、大人になった今でも、私の心に深く残っているのです。

朝、妻を見送る幸大の目。だけど決して泣きません。

「がっこ（学校）、がっこ（学校）」とつぶやきます。そして、ふだんの顔をして、みんなと遊んでいるのです。だからこそ、できうる限り父親は、一緒にいてやろうと思うのです。

夕方妻が帰って来ると、一目見るなり「ママ、ママ」と、決してそばを離れません。

そして、ママが大好きです。

（教育広報委員 鈴木浩幸）

第10回古楨雪上運動会

雪は仲間!!

「冬は雪を思いっきり楽しんでしまおう」と古楨地区雪上運動会が2月11日、区民総参加で開かれました。

暖冬とはいっても果樹集荷場隣の特設広場（田んぼ）は十分な雪。「夫婦ソリひき」や子供や老人たちの「商品たおし」など冬ならではの競技に汗を流しました。

昼食は、若妻会と婦人会のお母さんたちによる手づくりのトン汁やおでんがふるまわれ、冬の寒さを吹きとばした一日でした。



地区民みんなて楽しんだ雪上運動会



●大谷三／鈴木 良浩さん
園美さん

さややか
新婚さん

4年前、障害を持つ人も持たない人も共に参加できる『ふれあいコンサート山形』で出会った二人。2年前の『自然観ワインの夕べ』から急接近し、昨年11月にめでたくゴールイン。

良浩さんは、町内フォークコーラスグループ「あめっかぜ」のメンバーとして、10月に韓国で開催される万国博覧会の公開行事『アジア障害者音楽祭』に向けて準備中。園美さんは、聴覚障害者男子バレーボール部のマネージャーとして活躍中です。

いつもお互いがお互いを高めあえるような関係でいたいと語るお二人です。

いつまでもお幸せに・・・。
(松田栄子 広報委員)

人口と世帯数

●平成5年2月28日現在

人口	10,345(減11)
男	5,152(減8)
女	5,193(減3)
世帯数	2,546(増5)
	() 内前月比

こせきのまど

■2月1日～28日届出

区名	出生児氏名	父名
松程	長岡 弘晃	睦
宿	白田 真唯	潔
杉山	安藤 華奈	直喜
夏草	阿部 琢也	恵寿

おしあわせに
(婚姻届)

区名	死亡者氏名	世帯主
小原	清野 ハナオ	東助
四ノ沢	佐藤 勇市	きくゑ
夏草	鈴木 佐喜雄	なゑ
大谷六	渡邊 よし子	達夫
大沼	白田 シゲノ	良治
八ッ沼	齊藤 さたゑ	昭一
大谷三	長岡 才一	美智雄
大町	鈴木 伊平	俊一
大暮山	阿部 マチヨ	俊一
本町	長岡 きの	和美



すこやかに
(出生届)



やすらかに
(死亡届)



- 町へ寄付
前町長の小林富蔵氏(大沼)より町へ三十万円いただきました。
- (朝日町)育英会へ寄付
・大町の海野富太郎さんより十万円いただきました。
- ・夏草の佐竹瑞穂さんより二十万二千円いただきました。
- 町社会福祉協議会へ寄付
・立木小学校の児童のみなさんより「たすけ合い運動」で集めた現金八千円をいただきました。



- ・天童市在住の鈴木きみさんと西町の佐竹光尾さんよりそれぞれ現金五万円をいただきました。
- ・本町の長岡和美さんより現金十万円をいただきました。
- おわびと訂正
先月号の「こせきのまど」の欄で佐藤智也ちゃん(地区名が小原となっていました)が、宿の誤りでした。おわびして訂正させていただきます。

春夏秋冬

編集後記

した。そのため、始めは研究員の戸惑いや、テーマ設定に長い時間を費やす苦労があったようです。しかし、同時に参加された皆さんは、職業の異なる人達との交流や視察研修、調査活動を通して大きく成長されたのではないのでしょうか。

町では、今後も人材養成事業を継続します。自分を高めようとする多くの皆さんの参加をお待ちしています。

(K)

一年半に及ぶ人材養成事業「あさひまちF21プロジェクト」の報告会が三月十一日、町中央公民館で開催されました。

四プロジェクト十グループの代表者は、活動経過や調査結果についてスライドやOHPを使い発表を行いました。このプロジェクトは、自ら研究テーマを考え、自らの力で調査を行い、まとめ上げるという、全国でも画期的な運営方法を取り入れま